

被災残壊物という言葉は造語です。

数百万トンの被災残壊物・津波堆積物の有効利用 「波の丘公園」プロジェクトの提案

平成23年4月13日

東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科

地域共同研究室 教授 今西 肇

平成23年4月3日
平成23年4月13日(一部変更)



波の丘の基本的なコンセプトは

「まちの復興」です。

今回の大地震でたくさんの「まち」が亡くなりました。そして人々はその「まちのお墓」を立てて、これから長くつづく険しい道を生き抜いていく決心をします。

そのための「波の丘」です。ただ単に廃棄物を処理するためのものではありません。

だから「祈りの丘」にならなくてはならないのです。

人が亡くなるとその遺骸をお墓に埋葬するように、まちが亡くなるとその遺骸である被災残壊物をまちのお墓に埋葬するのです。

波の丘は、震災復興の象徴でなくてはならないし、祈りの場でなくてはならないと思います。

祈りの丘・避難の丘・自活の丘・補給の丘・記憶の丘・美しい海が見渡せる丘

地域の産業復興が軌道に乗るまでの数年間、地域の人々の働ける場所として、一時期、この波の丘プロジェクトが雇用を創出します。この間に、地域の人たちは地域に住みながら、もともとある産業の再生を計り、自分たちの生活基盤を安定させます。

人口の流出はまちの活気が失われます。東北のまちが、再び豊かなまちとなるためにも、地元の人々を雇用することが必要だと思います。

地域の再生のために雇用創出も大きなテーマです。

今回の大震災に遭遇して、次の世代のために何ができるか何を残せるか。もちろん難しい問題は多いと思いますが、それを乗り越えなければなりません。

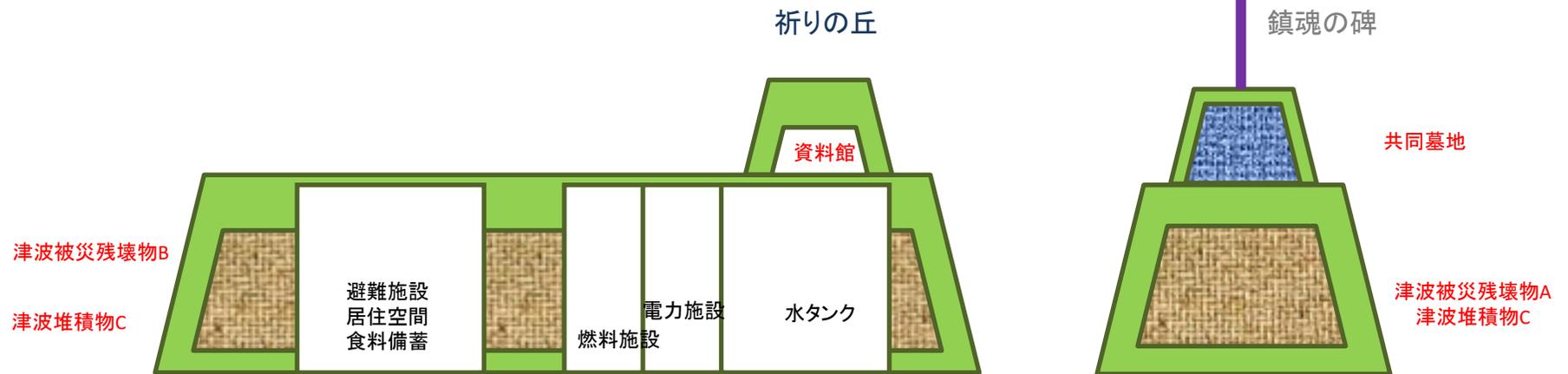
「波の丘」は、その場所の風土に合わせて形も変わるでしょう。その土地で再び生活を営む人々の希望でなくてはなりません。

その場所に住み続ける人たちが、未来への一歩を踏み出してもらうため、地元の人たちといっしょになり未来へ津波の真実を伝える必要があります。

「波の丘」がその役割をしてくれることを望みます。

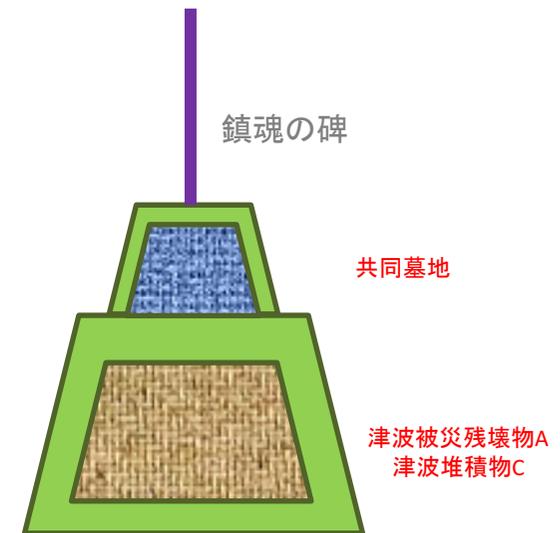


若林区荒浜地区



津波被災残壊物A: まちの記念物、個人の記念物、身の回りのものなど
 津波被災残壊物B: 建物や構造物が壊れたもの
 津波堆積物C: 津波で運ばれた土砂など

宮城野区七北川左岸河口地区



津波被災残壊物A: まちの記念物、個人の記念物、身の回りのものなど
津波被災残壊物B: 建物や構造物が壊れたもの
津波堆積物C: 津波で運ばれた土砂など

